

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都西東京市泉町 3-12-25 パスレル保谷 1 階
園名	生活クラブ保育園ぼむ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

氷の感触を楽しむ(0 歳児)

<テーマの設定理由>

暑い日は外に出られないので、それにかわるものを考えていった。

2. 活動スケジュール

7月、8月の暑い日に行う。8月6日～

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・安全なシート
- ・洗面器 ・タオル ・氷

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

行う前から、洗面器に対して慣れておいた。氷ではなく、導入として洗面器に水を入れてその感触を楽しんでいた。

何度か繰り返してやっているうちに、慣れてきて楽しめるようになっていった。

暑い日に、遊び慣れた室内でシートを敷き洗面器を出した。何か始まるなという表情で楽しみに待つことができた。

氷を出してその感触遊びを楽しんだ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

「これは一体なんだろう？」からの出会いを大切にしていた。全く触れたことのない氷を触る瞬間を大切にしていた。その瞬間びっくりした表情で氷を見つめていた。嬉しそうな様子があった。言葉はまだ出ないが、「あ、あ」と嬉しそうであった。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

初めは恐る恐る触っていた氷だが、その表面の変化に驚いた様子であった。指で突いたり、手の平出撫でたり、押してみたり様々な様子があるのだなと関心した。どの子ももっと触っていたいという状態であった。嫌がる様子があまり見られなかったのには驚いた。



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都西東京市泉町 3-12-25 パスレル保谷 1 階
園名	生活クラブ保育園ほむ保谷

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「絵の具」(ボディペインティング)をテーマとして設定する。

<テーマの設定理由>

夏の色水遊びを通して、色の変化に興味を持つようになった。戸外でも「〇〇色だね」等色を探すようになり、「あれは何色?」と変化していった。子どもたちの興味関心がさらに広がるため。

2. 活動スケジュール

令和7年8月20日

以後適宜活動に取り入れていく

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

絵の具・スポンジ・どろんこプレート・バケツ・トレー・模造紙

環境設定として存分に楽しめるように、全面にブルーシートを敷いてどろんこプレートを用意し、床だけではなく壁にも模造紙をつける。絵の具は3~4色使用し、指絵の具を使う。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

最初は、どろんこプレートの上に絵の具を出し手やスポンジで感触を楽しんだ。絵の具を増やしていき、保育者に支えられプレートの上で歩いてみたり足裏でも感触を楽しんだ。壁に模造紙を貼り白い紙に絵の具が付くことも行った。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

準備の段階から興味を示し「何をするの?」と覗いていた。すぐに触りにいく児や側で様子を見ている児には無理には進めず様子を見守った。友だちや保育者の楽しむ様子を見て徐々に触り、顔や腕に自ら塗り始めていた。子ども同士で手の平を合わせて塗り合う姿も見られた。2歳児は色に興味を示している時だったので「〇〇色と〇〇色をつけたら〇〇色になったよ」など嬉しそうに話していた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

今まではボディペインティングをしたことがなく、絵の具になかなか触れる機会が少なかった。夏の色水遊びを通して色に興味が出てきたときに実践することができ良かった。

全身で楽しんでいて触りたがらない児も後半には一緒に楽しむことができた。

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都西東京市泉町 3-12-25 パスレル保谷 1 階
園名	生活クラブ保育園ほむ保谷

1. 活動のテーマ

<テーマ>

片栗粉や小麦粉などの粉の感触を味わう

<テーマの設定理由>

片栗粉と小麦粉の粉の状態から水を加えるとどうなるか、変化する形状を知り、手触りの違いを楽しむ。

2. 活動スケジュール

令和7年8月～10月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・片栗粉 ・小麦粉 ・ブルーシート ・水 ・洗面器

室内の床全面にブルーシートを敷き、小麦粉をその上に直接出した。一人一人密集しないように、粉の山を数か所に分けて出した。壁と棚はブルーシートで覆い、粉で汚れないようにした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

まずは粉の状態で触り、その後食紅を加えて色を付けたり、水を加えて形状を変化させた。その都度子どもたちの写真を撮影し、子どもたちの表情も記録した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・常勤職員が1冊のノートに各自感想や子どもたちの様子、今後の課題などを記録した。
- ・子どもたちの感想は、粉を触ってみると「サラサラしてる」「きもちいい」などの声が聞かれた。
- ・小麦粉は床で行ったことにより、手だけでなく足裏や全身を使って感触を楽しんでいた。
- ・水を加えると「手にくっつく」「べたべたする」など子どもたちの発見があった。
- ・片栗粉と小麦粉の水を加えたときの触った感触が違うことも発見があった。

小麦粉あそびの様子



片栗粉あそびの様子



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・粘土状の小麦粉に食紅を粉のまま入れると一部にしか色が付かなかったので、水にといて入れたほうが全体に色が付いたと思う。
- ・大きな粘土になった時に、保育者が道を作ったが、そこは子どもに任せた方が良かった。

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都西東京市泉町 3-12-25 パスレル保谷 1 階
園名	生活クラブ保育園ほむ保谷

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「感触遊びとしてのウェーブバランス」

<テーマの設定理由>

手が汚れることを極端に嫌う児が多いクラスで、夏に絵の具や小麦粉などの感触遊びができない児が多かった。そこで、汚れることなく感触を楽しめる物を取り入れたい。表面の凸凹や傾斜が足裏を刺激し、感触を楽しみながら脳の発達を促すことを期待している。

2. 活動スケジュール

12月2日（火） ウェーブバランス

以後適宜活動に取り入れていく

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

ウェーブバランスを購入。
初日は非常勤保育士を加配

4. 探究活動の実践 <活動の内容>

ウェーブバランス平均台をまっすぐに繋げる。レインボーバランスストーンを置く。
最初に順番に触ってみる。次に1人ずつ保育者が子どもの手を取り、バランスストーンの上に乗ったり、ウェーブバランスの上を歩いたりしてみる。
手や足裏から伝わる感触を味わいつつ、運動遊びとしても取り入れていく。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

水玉模様や棒線の模様が入っているのを見て、みんな興味津々。保育者がケースから出し並べる様子をじっと見つめていた。

順番に手や足で触ってみる。「凸凹しているね」と保育者が声をかけると「ぼこぼこ～」と少し笑顔になる子どもたち。「なんかちがうー」と不思議そうな表情で恐る恐る触る児もいた。全員が触れたので、一人ずつ保育者が手を取り、バランスストーンに立ちまいたり、平均台を歩いてまいたりした。片足だけ乗せる児、足をどんどんとしてみる児、すぐに両足で乗って嬉しそうにする児など、反応は様々だった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

自分から触ろうとしなかった児も保育者が触り汚れないことが分かると、安心した表情だった。ゴムのぺたぺたとしたすべらない手触りに、少しびっくりした様子で保育者の顔を見ていた。嫌がる児はなく、乗ってみようと意欲的に挑戦する姿が印象的だった。想像していたよりも子どもたちがウェーブバランスを受け入れていて、ドキドキとした表情を見せつつ、楽しんでいる姿があった。